

I. 平成23年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間;平成20年7月～平成25年3月(4年9月)

1. 概況

本市の中心市街地活性化基本計画(以下「計画」という。)は計画期間が残り約1年となっており、計画に位置づけられた65事業中、10事業が完了、ソフト事業など39事業が実施中、16事業が未完了(うち未着手等8事業)となっている。

平成23年度で、7月には中心市街地の観光の拠点となるもりおか歴史文化館が開館し、また11月には「盛岡表参道・暮らしと賑わい再生事業」として計画に位置づけられているマンションが着工されるなど事業に進展があった。その他にも、複数のマンションが建設中、または建設予定である。さらに、平成22年2月に閉店した大通地区の電気店の空き店舗には小売店舗や飲食店が入居しており、毎年2月下旬に実施している空き店舗調査による中心市街地の空き店舗数は平成22年度と同数であり増加傾向に歯止めがかかるなど、賑わいの回復が図られている。その一方で、地域経済の低迷や東日本大震災の影響により、バス事業者を実施主体とし、現状規模の建替えの方向で検討を進めていた「バスセンター周辺地区再整備事業」や、実施主体である百貨店が民事再生手続を行っている「中ノ橋通一丁目プロジェクト」が、事業を実施できない状況であるほか、計画区域外では大規模小売店舗の出店が2件あり、今後も2件の出店が予定されているなど、中心市街地小売業は厳しい状況にある。

このような中、計画以外の事業として、東日本大震災で被災した商店街等を支援するイベントを開催する際の補助を行う「被災商店街等販路拡大支援事業」を実施し、被災地の復興支援とともに賑わいの創出を図るほか、ふるさと雇用再生特別基金事業などを活用した「中心市街地商店街魅力向上事業」や「中心市街地活性化イベント企画事業」の実施により、イベント開催等により中心市街地への来街を誘引し、中心市街地の活性化に努めている。また「盛岡スクエア事業(まちなかポータルプロジェクト:戦略補助)」として、中心市街地の情報の一元化及び発信を行うことにより、中心市街地の賑わいの創出を図る事業を新たに計画に位置付け、平成24年度に事業実施することとしている。

2. 目標達成の見通し

目標	目指標	基準値	目値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
賑わいあふれる中心市街地	中心市街地の小売年間販売額	816億 5,900万円 (H19)	869億 3,900万円 (H24)	704億 4,500万円 (H22)	④	④
	中心市街地の歩行者・自転車通行量	50,260人 (H19)	51,000人 (H25)	48,823人 (H24)	③	③
訪れたい中心市街地	盛岡市街の	365万	372万	383万	①	①

	観光客入込 数	人 (H19)	人 (H24)	人 (H23)		
--	------------	------------	------------	------------	--	--

- 注) ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
 ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
 ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

(1) 中心市街地の小売年間販売額

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響による事故の発生以降、中心市街地の百貨店が閉店しており、その売上減少を補完するのは非常に困難である。また、「バスセンター周辺地区再整備事業」や「中ノ橋通一丁目プロジェクト」についても、事業の見直しを検討しているところであり、早期着手の目処が立っていないことに加え、「盛岡表参道・暮らしと賑わい再生事業」については、事業に着手したものの、マンション建設のみの事業に変更しており、定住人口の増加は見込めるものの、小売販売額の大幅な増加に繋がる事業ではなくなっている。復興需要で売上を伸ばしている百貨店等もあるものの、このままでは目標の達成は困難であるため、「盛岡スクエア事業(まちなかポータルプロジェクト:戦略補助)」を新たに計画に位置付け、交流人口の増加とともに小売販売額の増加を図る事業を実施することとしており、その他にも、当該目標の達成に資する事業の追加実施を検討していく必要がある。

(2) 中心市街地の歩行者・自転車通行量

大通地区では以前から行われてきた大通商店街とクロステラス盛岡、カワトク、MOSSなどの大型店との連携による賑わいの創出活動が活発化し、また河南地区では「中ノ橋通一丁目八幡町線道路整備事業」が完了し、コミュニティ道路が整備されたことを機に、地元商店街、町内会等がもりおか八幡界限まちづくりの会を設立し、地域の活性化に向けたワークショップやイベントなどを開催しており、賑わい創出や、周辺の交流人口が増加することが期待される。加えて、「歴史文化施設整備事業」により平成23年7月に開館したもりおか歴史文化館は、大通地区と河南地区の中間地点に位置している施設であり、両地区を回遊する観光客等による歩行者の増加が見込まれている。一方で、「中ノ橋通一丁目プロジェクト」の実施主体である百貨店が、東日本大震災の影響により民事再生法の適用を受け、新たなスポンサーの支援により再生を進めており、商業施設としての再開を模索しているが、「中ノ橋通一丁目プロジェクト」自体は未着手の状況である。また、「バスセンター周辺地区再整備事業」は、新たな実施主体として検討していた事業者が、東日本大震災により多大な被害を受けたため、未着手となっている。

このような状況の中で、今後は「バスセンター周辺地区再整備事業」の実施に向けて最大限努力し、交流人口増加による通行量の増加を図っていく。また、「盛岡表参道・暮らしと賑わい再生事業」によるマンション建設が進められているほか、中心市街地区域内で複数のマンション建設が進められており、居住人口増加による通行量の増加も見込まれる。さらには、追加事業として、中心市街地の情報の一元化やイベント開催を通じて交流人口を増やすことを目的とした「盛岡スクエア事業(まちなかポータルプロジェクト:戦略補助)」の実施を検討しており、その他の当該目標指標値に寄与する事業を確実に推進することで目標達成は可能であると見

込まれる。

(3) 盛岡市街への観光客入込数

平成 15 年以降観光客入込数は逡増傾向にあったが、長引く景気の低迷などから平成 21 年、22 年は対前年比 1.7%(6 万人) マイナスとなっていたが、平成 23 年度は一転して 7.3% (26 万人) のプラスとなった。これは、これまでの計画推進により中心市街地の活性化が図られてきたことに加え、東日本大震災の被災地に対して、消費や観光を通じた被災地支援の動きが全国的に高まり、市内を訪れる観光客が増加したことや、復興支援関連のビジネス客等の流入の影響によるものと考えられる。今後については、主要都市における盛岡デー等による盛岡ブランドの情報発信や、さんさ踊りなど等の観光客誘致イベントに取り組むほか、「もりおか歴史文化館(歴史文化施設整備事業)」の通年会館による観光客誘引効果も見込まれるとともに、平成 24 年 4 月から 6 月にかけて、JR6 社が、岩手県を対象としたデスティネーションキャンペーンを開催し、これにあわせて「東北六魂祭」などのイベントを実施することにより観光客誘致を行っていく。また、平成 24 年 9 月には日本矯正歯科学会大会、10 月には全国都市問題会議など、数千人が参加する全国規模の催事が当市で開催されるほか、スポーツでもプロ野球オールスター戦や女子サッカーリーグ(なでしこリーグ)の試合などが開催される。このように、平成 24 年度は継続して多くの人々が当市を訪れることが見込まれ、これらの大会・イベントに向けた情報発信や関係機関との連携により、目標達成は可能であると見込まれる。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回のフォローアップと比較し、見通しの変更なし。

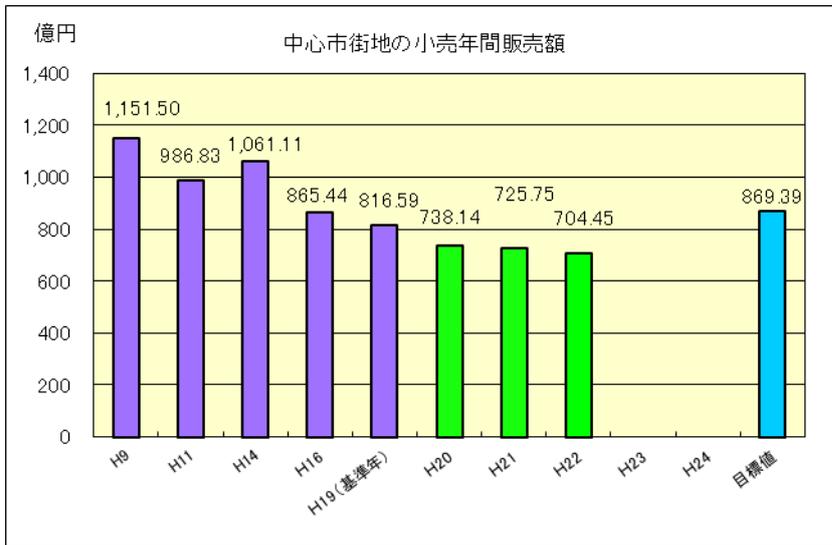
5. 今後の対策

見直しを行っている事業の早期事業化に向けた支援を重点的に行うとともに、計画に位置付けられた事業を着実に実施するほか、当該計画を補完する中心市街地の活性化に向けたソフト事業を推進する。特に、戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金を利用した「盛岡スクエア事業(まちまかポータルプロジェクト)」を実施するほか、商工会議所や商店街連合会などの関係機関と連携し、いわてデスティネーションキャンペーン強化や、全国規模の催事に合わせた新たな事業の検討・既存事業の効果の底上げを図っていく。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「賑わいあふれる中心市街地」

「中心市街地の小売年間販売額」※目標設定の考え方基本計画 P67～P72 参照

1. 調査結果の推移



年	(億円)
H19	816.59 (基準年値)
H20	738.14
H21	725.75
H22	704.45
H23	
H24	
H24	869.39 (目標値)

※調査方法；平成 16 年商業統計調査の実数に，大型店及び商店街組合から聴取した状況で補正した推計値

※調査月；平成 16 年 6 月時点調査（商業統計調査），盛岡市独自調査 毎年度 5 月実施，6 月取りまとめ

（前年度分（4 月～翌年 3 月分。ただし，大型店は各店舗の該当決算期分）の年間小売販売額等を調査）

※調査主体；商業統計調査を基に盛岡市の独自調査により補正し，盛岡市が推計

※調査対象；中心市街地の小売業者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大通三丁目地区再開発ビル建設事業（三田農林株式会社）

事業完了時期	【済】平成 21 年度
事業概要	従前平面駐車場であった区域に，1，2 階を商業施設，3～5 階を自走式立体駐車場とした，郊外型と異なる周辺への回遊性が高い施設を整備。
事業効果又は進捗状況	平成 21 年 10 月にクロステラス盛岡としてオープン。計画で想定していた入店者数(2,500 人/日)を超える集客があり，周辺の歩行者・自転車通行量が 2,826 人増加(計画 200 人)するなどの効果が発現しているが，小売販売額においては，市全域での小売販売額の低下もあり，計画で想定した効果の達成までには至っていない。

②. 中ノ橋通一丁目プロジェクト（株式会社中三）

事業完了時期	【未】平成 24 年度
事業概要	老朽化した既存の百貨店を建て替え，商業施設と居住施設を配した複合ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	既存建物を有効活用する方向で事業の見直しを行っていたが，平成 23 年 3 月に実施主体が民事再生法の適用となったため，事業内容再検討が必要となっている。現在，既存店舗は閉店しているが，平成 24 年秋以降に再開予定である。市としても店舗再開に向けて支援をしている

が、計画としての事業の方向性は不透明な状況である。

③. バスセンター周辺地区再整備事業（盛岡市・盛岡まちづくり(株)他）

事業完了時期	【未】平成 24 年度
事業概要	敷地が手狭となっているバスセンターと周辺地を含めた敷地の共同化と高度利用による複合施設を整備。バスターミナル機能や共同住宅、ケアマンション、子育て支援施設及び店舗・飲食などの都市機能を導入。
事業効果又は進捗状況	既存建物と同規模程度の建物にバスターミナル機能と商業機能を導入する方向で検討を行っている。

④. 空き店舗活用促進事業（盛岡市）

事業完了時期	【実施中】平成 24 年度
事業概要	中心市街地の商店街にある空き店舗への出店にあたり、店舗の内装、外装、給排水設備、電気設備等の改装工事を行う場合、その改装工事費の一部を補助する。（対象経費の2分の1、限度額 30 万円）
事業効果又は進捗状況	平成 20～23 年度の間で当該事業を活用した出店は 18 店あり、全店舗合計で約 2 億 6 千万円の販売額増加が見込まれている。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

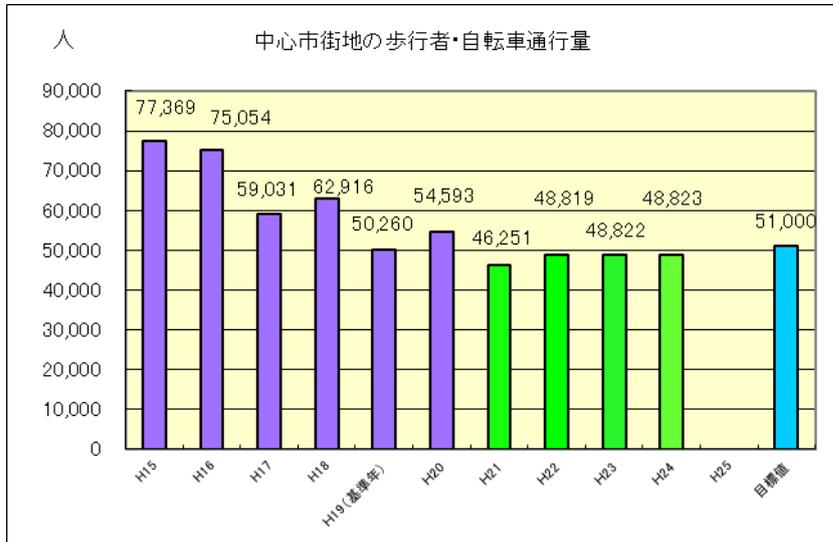
東日本大震災の影響により、中心市街地の百貨店が民事再生法の適用を受け、現在も閉店中となっているため、大幅な売上の減少となっており、また、当該百貨店は「中ノ橋通一丁目プロジェクト」の実施主体であるため、計画の見直しが必要となる。また、「バスセンター周辺地区再整備事業」は、景気の低迷などから、当初想定していた居住機能の導入を見送り、事業規模を縮小する方向で見直しを行っているところである。このように、いくつかの事業において計画で想定した効果を発現できないことが予想されており、目標の達成が見込めない状況となっている。

東日本大震災の復興に向けて取り組んでいる中、計画期間もあと一年となり、大規模な施設整備事業の展開は困難であるため、計画に位置付けられた当該目標に資するソフト事業の一層の推進を図るほか、「盛岡スクエア事業」の内容を拡充し、小売消費額の増加を図ることを検討する。また、本市の事業として、平成 23 年度に行った個人住宅改良支援商品券発行事業を継続実施し、住宅のリフォームを行った市民に対して市内で利用可能な商品券を発行することで、中心市街地を含む市内の消費額の増加を図っていくほか、平成 24 年には、JRのいわてデスティネーションキャンペーンや、当市を会場とした全国規模の大会・学会の開催など、全国から多数の人が訪れることが予想されており、この好機を的確に捉えた追加事業を検討・実施し、観光消費額の増加を図っていく。

II. 目標毎のフォローアップ結果「賑わいあふれる中心市街地」

「中心市街地の歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P73～P78 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H19	50,260 (基準年値)
H20	54,593
H21	46,251
H22	48,819
H23	48,822 (参考値)
H24	48,823
H25	
H25	51,000 (目標値)

※調査方法；歩行者・自転車通行量調査（毎年度3月に実施）

※調査月；平成23年3月実施，4月取りまとめ

※調査主体；盛岡まちづくり(株)

※調査対象；歩行者及び自転車通行者，平日及び休日の2日間8地点（数値は加重平均）

※平成23年は，東日本大震災の発生により3月中の調査ができず，4月に調査を行ったため参考値とした。

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 歴史文化施設整備事業（高次都市施設と地域創造支援事業の合築施設）（盛岡市）

事業完了時期	【済】平成23年度
事業概要	旧岩手県立図書館を活用し，歴史文化展示機能，文化観光交流機能市民活動支援機能等を有する歴史文化施設を整備。
事業効果又は進捗状況	年次計画どおり着実に事業を実施しており，平成23年7月に開館した。計画では114,000人/年人の来館者を見込んでいるが，開館後の平成23年7月から平成24年3月までの9か月間で，約163,000人が来館している。

②. 大通三丁目地区再開発ビル建設事業（三田農林株式会社）

事業完了時期	【済】平成21年度
事業概要	従前平面駐車場であった区域に，1,2階を商業施設，3～5階を自走式立体駐車場とした，郊外型と異なる周辺への回遊性が高い施設を整備。
事業効果又は進捗状況	平成21年10月にクロステラス盛岡としてオープン。計画で想定していた入店者数(2,500人/日)を超える集客があり，周辺の歩行者・自転車通行量が2,826人増加(計画200人)するなどの効果が発現している。

③. 中ノ橋通一丁目プロジェクト（株式会社中三）

事業完了時期	【未】平成24年度
--------	-----------

事業概要	老朽化した既存の百貨店を建て替え、商業施設と居住施設を配した複合ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	既存建物を有効活用する方向で事業の見直しを行っていたが、平成23年3月に実施主体が民事再生法の適用となったため、事業内容再検討が必要となっている。現在、既存店舗は閉店しているが、平成24年春以降に再開予定である。市としても店舗再開に向けて支援をしているが、計画としての事業の方向性は不透明な状況である。

④. バリアフリー化設備等整備事業（バス事業者）

事業完了時期	【実施中】平成24年度
事業概要	バリアフリー低床バスの導入により、人に優しく、利用しやすい公共交通に転換を図り、「暮らしや便利さを感じる中心市街地の形成」の実現を目指す事業。
事業効果又は進捗状況	平成20年度から平成24年度までの間、年1台を導入する計画としており、平成22年度まで導入実績は無かったが、平成23年度は1台導入している。当該事業と公共交通利用促進関連事業を合わせ、4,188人/日の増加を見込んでいる。

⑤. 盛岡表参道・暮らしと賑わい再生事業（宮城開発株）

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	民間による再開発事業。現在、平面駐車場である事業地にマンションを建設することにより、周辺地域での交流人口を増加させ、賑わいを創出する事業。
事業効果又は進捗状況	平成23年11月に着工し、現在建設中である。平成25年2月に完成予定となっており、居住人口の増加による歩行者・自転車通行量の増加を見込んでいる。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

平成23年7月に「歴史文化施設整備事業」により開館したもりおか歴史文化館では、計画で想定された以上の入場者があり、周辺地区の歩行者・自転車通行量についても、計画では218人の増加を見込んでおり、また、平成22年度に「中ノ橋通一丁目八幡町線道路整備事業」が完了し、コミュニティ道路が整備されたことを機に、地域の活性化に向けた活動が活発化しているため、周辺の交流人口が増加することも期待されているが、「中ノ橋通一丁目プロジェクト」は、実施主体が民事再生法の適用を受けており、事業の大幅な見直しが必要な状況にある。

しかし、「盛岡スクエア事業」の拡充により、中心市街地の交流人口を増加させることを目的とした事業を行うことを検討しているほか、その他の当該目標指標値に寄与する事業を確実に推進していくことで目標達成は可能であると見込まれる。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「訪れたいくなる中心市街地」

「盛岡市街への観光客入込数」※目標設定の考え方基本計画 P79～P81 参照

1. 調査結果の推移



年	(万人)
H19	365 (基準年値)
H20	370
H21	363
H22	357
H23	383
H24	
H24	372 (目標値)

※調査方法；市街地の宿泊施設や高速道路，バス，鉄道の利用者の調査

※調査月；3月（前年分（1月～12月））

※調査主体；宿泊施設や交通機関からの回答を盛岡市が集計

※調査対象；市街地宿泊施設，市内及び近郊高速インターチェンジ3地点，盛岡バスセンター及びJR盛岡駅

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 歴史文化施設整備事業（高次都市施設と地域創造支援事業の合築）（盛岡市）

事業完了時期	【済】平成 23 年度
事業概要	旧岩手県立図書館を活用し，歴史文化展示機能，文化観光交流機能市民活動支援機能等を有する歴史文化施設を整備。
事業効果又は進捗状況	年次計画どおり着実に事業を実施しており，平成 23 年 7 月に開館した。計画では 114,000 人/年人の来館者を見込んでいるが，開館後の平成 23 年 7 月から平成 24 年 3 月までの 9 か月間で，約 163,000 人が来館している。

②. 盛岡ブランド推進計画の実施（盛岡ブランド推進戦略会議）

事業完了時期	【実施中】平成 26 年度
事業概要	盛岡がもっている有形無形の財産(価値)を育み活かす地域ブランドづくりを行うとともに，イベント等により効果的に情報発信し，「暮らしたい」，「訪れたい」などと選ばれるまちとしていく事業。
事業効果又は進捗状況	まちなみ景観プロジェクトなど 4 事業を着実に実施しており，年間 1 万人の観光客の増加を見込んでいる。

③. 「映画の街盛岡」推進事業（盛岡市）

事業完了時期	【実施中】平成 24 年度
事業概要	行政，市民及び関係団体などが連携し，路地小路ネーミングやミニシア

	ターなどを実施し、「映画の街盛岡」の情報発信を行う。
事業効果又は進捗状況	シネマストリートギャラリーや映画館通りのマップの作成、映画祭開催事業と連携した名作映画会の開催、素敵なまちの映画会の開催など、着実に事業を実施しており、映画祭開催事業と合わせ年間 3,300 人の観光客増加を見込んでいる。

④. 市（いち）の開催（各実行委員会ほか）

事業完了時期	【実施中】平成 24 年度
事業概要	材木町・盛岡駅周辺地区・紺屋町・中ノ橋通などで山菜・魚介類・花卉・アンチックなどの市を開催。
事業効果又は進捗状況	材木町よ市(4月～11月の土曜日)、北の民謡市場(毎週水・金曜日)、奥州懐道紺屋町アンチック市(4月～11月第3日曜日)、葺出町花の市(4月～12月の土曜日)などが定期的に開催されており、当該事業を含めたイベント全体で年間 20,850 人の観光客増加を見込んでいる。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

平成 21, 22 年の観光客入込数は、連続して対前年比マイナスとなっていたが、平成 23 年度は東日本大震災の被災地に対して、消費や観光を通じた支援の動きが全国的に高まったこともあり、平成 23 年 8 月 1 日から 4 日にかけて行われた「さんさ踊り」の観客動員数は、過去最高の更新し 136 万 1 千人となるなど、各種イベントで多数の観光客が市内を訪れている。このほかにも、平成 23 年 7 月には、「歴史文化施設整備事業」が完了しており、平成 23 年 7 月から平成 24 年 3 月の 9 ヶ月間で、16 万 3 千人が来館しているなど、計画事業の実施により、市内を訪れる観光客の増加が図られている。

今後は、平成 24 年 3 月から平成 25 年 3 月にかけて東北観光博が開催されており、また平成 24 年 4 月から 6 月にはJRのいわてデスティネーションキャンペーンの開催が予定されているため、これに合わせて東北六魂祭等のイベントの企画・実施を行うことにより、観光客数の増加を図る。また、復興支援・被災地視察を兼ねた全国規模の大会・学会等の開催が当市で予定されており、これらにあわせたイベント開催などの追加事業を行うほか、引き続き計画に取り組むことで、目標達成は可能であると見込まれる。